

1月4日 (日) 出エジ プト記 16章	「荒れ野に入ると、イスラエルの人々の共同体全体はモーセとアロンに向かって不平を述べ立てた」(2節)。奴隷の身から解放されたイスラエルの人々。しかし、葦の海から旅立ち、荒れ野に入ったとたんに、エジプトは良かった！と昔を懐かしみ、モーセたちに向かって不平を述べ立てる。主の恵みによって、まだ見ぬ嗣業に向かって希望を理解できない。
5日 (月) 出エジ プト記 17章	「民がモーセと争い、『我々に飲み水を与えよ』と言うと、モーセは言った。『なぜ、わたしと争うのか。なぜ、主を試すのか』」(2節)。「主を見上げている」と言いながら、わたしたちの眼は実は自分を、自分の欲を見つめている。神の言葉を取り次いでいるモーセを見ながらも、イスラエルの人々には、自分たちを導かれる神を見ることができなかったのだろうか。
6日 (火) 出エジ プト記 18章	「あなた自身も、あなたを訪ねて来る民も、きっと疲れ果ててしまうだろう。このやり方ではあなたの荷が重すぎて、一人では負いきれないからだ」(18節)。主の御用を担わせていただく時、「わたしが！」と、張り切ってしまうことはないだろうか。教会は、主を求める人々が集い、主から託されたミッションを共に担っていく群れ。働きを分かち合い、励まし合いたい。
7日 (水) 出エジ プト記 19章	「今、もしわたしの声に聞き従い／わたしの契約を守るならば／あなたたちはすべての民の間にあって／わたしの宝となる。／世界はすべてわたしのものである」(5節)。主の言葉に聞き従い、主との契約をすべて守る。欠け多いわたしには難しい。けれど主よ、今日一日、この一年、あなたの恵みの先立ちと伴いを信じ、「あなたの宝」として歩ませてください。

<p>8日 (木)</p> <p>出エジ プト記 20章</p>	<p>「モーセは民に答えた。『恐れることはない。神が来られたのは、あなたたちを試すためであり、また、あなたたちの前に神を畏れる畏れをおいて、罪を犯させないようにするためである』」(20節)。主の戒めは、恐れて忌避するものではない。わたしたちが罪を犯して命を損なうことがないように！という主の慈しみの表れ。神を畏れ、その恵みを感謝して十戒に従う。</p>
<p>9日 (金)</p> <p>出エジ プト記 21章</p>	<p>「人を打って死なせた者は必ず死刑に処せられる。…自分の父あるいは母を打つ者は、必ず死刑に処せられる」(12, 15節)。この章には、多くの犯罪や過ちとそれに対する罰則が示される。中でも、死刑が多い。そして24節はハムラビ法典にも記される「目には目、歯には歯…」が続く。わたしたちが罪を犯したときどのようにして償うことができるのだろうか。</p>
<p>10日 (土)</p> <p>出エジ プト記 22章</p>	<p>「寄留者を虐待したり、圧迫したりしてはならない。あなたたちはエジプトの国で寄留者であったからである。」(20節)。我が国も、世界の先進国と呼ばれる多くの国も、貧困や圧迫、迫害を逃れて自国にやって来て、共に暮らす人々を国の外に追い出そうという動きが広がっている。彼らは、ただの労働力ではない。主の福音と恵みを分かち合う友、神の家族。</p>
<p>11日 (日)</p> <p>出エジ プト記 23章</p>	<p>「あなたは根拠のないうさを流してはならない」(1節)「あなたは多数者に追従して、悪を行ってはならない」(2節)。根拠のないうさを面白がり、他者に流す。多数者の言葉に安易に追従する。何千年も前から人間は変わらない。私たちの心はなんと浮ついていることだろうか。「恵みと真理とに満ちた方」(ヨハネ 1:14)にしっかりと根を張った生き方をしたい。</p>